

古典文学研究の醍醐味

国語教育講座・教授

永池 健二

■古典に遊ぶ

古典の世界に遊ぶ。心を悠久の時の彼方に解き放ち、作品の行間にしなやかに分け入って、その魅力を味わい尽くす。

古典文学研究の醍醐味は、これに尽きます。古典文学の研究にとって、最も大切な基礎作業は、テキスト本文の厳密な校訂であり、豊富な用例を踏まえた的確な注釈です。勢い、日々の研究活動は、図書館や研究室に籠って古書や古辞書を渉猟する文庫作業の積み重ねですが、そうした一見単調でたいくつなものに見える作業を、いかにも心楽しく創造的なものにしてくれるものこそ、この「遊ぶ」心にはかなりません。

■祭りの庭に遊ぶ

四十路にして全国祭礼行脚の快楽に目覚めました。爾来云十年、繁忙な仕事と虚弱な体力の折り合いが付けば、とりあえず飛び出して行く。神と人が界を越えて交歓する祭りの庭は、古人の生き方や心が凝縮して伝えられた、生活の「生きた古典」ともいえるべき場です。そうした祭りの庭に、自ら足を



平家物語の故地を尋ねて・壇ノ浦、厳島セミナー研修旅行



踏み入れ、自らの目で見、体で感じとって、その隠れた意味を一つひとつ解き明かして行く。その試みは、古典文学研究の醍醐味にも通じる実に心楽しい作業です。

■「あかのみあ・やばにか」への誘い

私の所では、「あかのみあ・やばにか」という学生の自主的な学習サークルを開いています。ちょっと大仰な名前ですが、古典と民俗の両面から日本の伝統文化を学び楽しむことを目的としたもので、月一、二回のやさしい古典（たとえば「鉢かづき」や「道成寺縁起」といった）の輪読会を一つの柱に、折々の祭礼神事の実地の見学をもう一つの柱に、活動が続いています。心を悠久の彼方に飛ばし、古典に遊び、神と遊ぶ。この歓びをともに味わってみませんか。

子どもへの支援を通して楽しさを

特別支援教育研究センター長・教授

岩坂 英巳

■なぜ教育大学に精神科医がいるのか

私の専門分野は「児童青年期精神医学」です。4年前にこの大学に来るまでは「医者」をしていました（今も診療は続けていますが）。子どもの精神科医ですので、心身症、不登校、摂食障害、あるいは多動やパニックなどさまざまな心身のしんどさを持ちながら精一杯がんばろうとしている子どもたちのおつきあいをしてきました。そして、彼らに共通する弱さとして



セミナー主催研修会でのひとコマ

■特別支援教育のススメ

「ソーシャルスキル（いわゆる人付き合いの技術）」と「セルフエスティーム（自分を知り、大切にできる気持ち）」があることに気づき、それらを伸ばしていく治療法を開発・実践していきたい、と約10年前に思い立ち、米留学を経て、気づいたらここにいました。

私の研究テーマは、主に発達障害（ADHDやアスペルガー障害など）のある子どもへのソーシャルスキルトレーニング（SST）やペアレントトレーニングという集団プログラムです。「子どもの良いところに注目して伸ばしていく」、それは治療プログラムとしてなされることもあります。学校や家庭など子どもの日常生活の場においてこれまで当たり前になされてきたことでしよう。特別支援教育とは、これまでの「その子らしさを伸ばす」教育に少し専門性をプラスして、しかもいろんな他職種や親、もちろん本人の意見も取り入れつつ、検証と計画立てを行いながら前に進んでいくものです。子どもたちがスキルを伸ばし、自信を回復し、本来の笑顔を取り戻して成長していく姿を見ることが出来る特別支援教育（<http://www.nara-edu.ac.jp/CSNE/csne-index.htm>）。そんな楽しい世界に、あなたもサポーターとして足を踏み入れてみませんか。

基礎・基本を 大切にしたい 教育と研究

学校教育講座・教授
藤田 正

■私の研究：

「認知活動における促進と妨害」

教育・研究においては、基礎・基本を大切にすることを私の基本的な姿勢としています。専門分野は、認知と記憶の心理学です。認知活動における情報処理の促進と妨害のメカニズムを研究してきました。記憶の体制化やプライミング効果の研究では促進的な要因の解明を、記憶の干渉やストループ干渉の研究では妨害的な要因の解明をし



研究室にて指導学生と

てきました。実験では、漢字を刺激として使用したことで、漢字の情報処理特性を明らかにでき、意義のある研究ができたと思っています。認知活動をコントロールするメタ認知や自己調整学習などについて研究する中で、最近では、大学生における先延ばし行動についての研究を始めました。先延ばしの原因、先延ばし行動に影響すると思われる自己制御力、完全主義傾向、課題への興味、学習意欲などとの関係を調べる研究を進めています。

■卒業論文・修士論文では

今年は、6名の学部生と1名の院生が卒論と修論の指導学生です。記憶の分散効果、学習課題先延ばし行動、アサーションなどが研究のテーマです。構想発表会も終わり、調査や実験の準備に取り組んでいます。厳しい指導の中にも、和やかな雰囲気があふれている研究室です。

■地域貢献として

大学の仕事が増えます忙しくなっている現状ですが、日本学校心理学会奈良支部が発足して以来、事務局を担当しています。「学校心理士」は、学校が抱える問題に対する心理教育的援助を行う専門的な資格です。地域の学校心理士の専門的力量的向上のために、研究会などを企画しながら、会員の皆さんと共に頑張っています。

ことば・心・文化

英語教育講座・教授
吉村 公宏

■人間：ことばが創る世界の住人

専門分野は「言語学」です。ようするに、「ことば」です。私の場合、「ことば」と「心」と「文化」に関心を置いています。観察や分析の前に大切なことは、「ことば」を使う人間を好きになるということことです。突然ですが、秋川雅史という歌手をご存知でしょうか。そうです。『千の風になつて』という歌で有名になったテノール歌手です。

私の墓の前で、泣かないでください

Do not stand at my grave and weep,

そこに私はいません 眠ってなんかないません

I am not there; I do not sleep,

千の風に 千の風になつて

I am a thousand winds that blow,

あの大きな空を 吹きわたっています

(作詞／不祥 作曲／日本語詞／新井満)

『千の風になつて』は、アメリカインディアン族の伝承詩という説があります。聞いたこともない遠くの世界の人が、はるか昔に作った詩なのに、なぜか心に響いてきます。身近な、大切な人を亡くさなかった人はこの世にだれもいません。もし、その人が「風



卒業式のあとで学生たちと

になつて大空に吹きわたっているよ」と教えてくれたなら、少し心が和らぐのではありませんか。ことばは音と意味の結びついた何かです。あまりにも当たり前すぎますか。でも、不思議なのは、音と意味が結びつくだけで、嬉しかったり、悲しかったりすることです。まるで郵便配達人のように、ことばは私たちの心の奥まで何かを届けてくれます。

■ことばの不思議

ことばは、今そこにあるモノを指すだけの記号ではありません。見えない、聞こえない、触(さわ)れないコト、つまり時空間を一気に飛んで、想像の世界を創造する力を持っています。ことばは、想像を音や文字に変えることで自分の世界をつくる材料として働きます。地上にある5000の言語は、その言語の語彙・文法・発音で、その言語を話す人々に想像の手段を提供しています。言語学が面白いのは、こうしたことばの力に目を向けて、その言語で生きる人々の心と文化を垣間見ることができからです。

子どもの目線で 環境をとらえる

社会科教育講座・教授
岩本 廣美

フィールドワークで子どもの研究

私の専門分野は元々地理学で、子どもを追跡するフィールドワークから研究は出発しました。子どもたちに、日頃遊んでいる場所や「秘密基地」などを案内してもらい、遊び環境の実態を明らかにしてきました。また、子どもが自身の生活領域を描いた地図の分析な



研修旅行



野外でのコンパ

ども行いました。研究の基本は、「子どもの目線で環境をとらえる」ことです。フィールドワークを通して子どもの目線で見えていくと、大人にとってはただの雑木林が「どんぐり山」や「へび山」として輝きを放ち、子どもたちに豊かな遊び（＝学び）と想像力をもたらす環境となるのです。

現在、私は本学で主として社会科教育および生活科教育の授業を担当していますが、教科の学習素材や学習活動のあり方を考えていくときに、いつも念頭にあるのは「子どもの目線」です。

野外でのゼミ活動

私の研究室（ゼミ）では、資料や文献を使った研究だけではなく、フィールドワークや野外での体験活動を取り入れた調査や諸活動にも力を入れています。最近、「アヒル橋」と近隣の子どもたちが呼ぶところへ、学生と一緒にフィールドワークに行ってきました。本学の近くを流れる大和川支流に架かるこの橋の付近は、子どもたちの人気スポットです。

ゼミの活動として、年に二、三回、研修旅行を実施しています。2006年12月には、和歌山県湯浅町に出かけ、シラスの加工業者（写真）やミカン園などを訪問しました。

最近のゼミ生の卒論テーマ例に、「奈良に来訪する修学旅行生の学ぶもの」「学校の休み時間における子どもの遊びの世代間比較」などがあります。

スポーツの魅力 行っ楽しさ 見る面白さ

保健体育講座・准教授
高橋 豪仁

生涯スポーツ

日本では、スポーツ享受のあり方が大きく変わろうとしています。明治時代以降、スポーツは主に学校を活動基盤として普及してきました。しかし近年、地域を基盤としたスポーツの展開が目まぐるしくなっています。

また、スポーツと言えば、青少年の健全育成のためのものという考え方が一般的ですが、今では青年期に限らず人生の全てのライフステージにおいて、それぞれの体力・能力、目的に応じて、豊かで充実した生活を楽しむためのスポーツという「生涯スポーツ」が重要視されています。

私の専門領域はスポーツ社会学ですが、生涯スポーツの振興を研究テーマとしています。例えば、奈良県内の地域スポーツクラブの実態調査や、運動部活動と地域スポーツクラブの連携のあり方、障害者スポーツ振興の問題点について研究しています。



地域の車椅子ツインバスケットボール
チーム「プロス」の練習への参加
(於：奈良市総合福祉センター)

スペクテーター・スポーツ

もう一つの私の研究テーマは、スペクテーター・スポーツ（見るスポーツ）に関するものです。スタジアムでプロ野球観戦者にアンケート調査を実施したり、応援行動を観察したりしてきましたが、数年前からプロ野球の私設応援団の参与観察を始めました。スポーツ観戦を介した自発的な集団が如何に形成され維持されるかを描きたいと思っています。

スポーツの常識を疑う

学生さんたちには、やって楽しく見て面白いスポーツの魅力や、他の人たちに伝えることができるようになって欲しいと思っています。でも、スポーツの世界にとつぷりと浸かってしまうのではなく、常に健全な懐疑心をもって、スポーツ現象を見てください。生涯スポーツは、スポーツ活動のシステムを総合的に見直していくための考え方、つまりスポーツ制度の再編成（改革）の原理・発想でもあるのです。

困難を抱える 子ども・青年に 権利としての教育を

教育実践開発講座・准教授

越野 和之

■教育を受ける権利と障害のある子ども

日本国憲法（1947年）は、すべての国民の「ひとしく教育を受ける権利」を謳っています。しかし、この憲法の下でも、障害が重かったり、二つ以上の障害を併せ持つ場合は、戦前に引き続き、ながらく教育を受ける権利を奪われてきました。文字どおりすべての子どもの「教育を受ける権利」を実現するために、養護学校教育の義務制などが実施されたのは1979年、今からわずか30年内外のことです。



障害児教育学演習の授業で

■1970年代以降の発展

私は、大学時代に障害の重い子どもたちと出会いました。ちょうど、養護学校義務制実施の直後の時期でした。それ以降、養護学校高等部希望者全入を求める取り組み、学校五日制を契機とした学校外の地域生活を豊かにする取り組み、毎日の生活のために医療的なケアを必要とする子どもたちの教育権保障の取り組みなどが続きます。養護学校義務制を一つの契機として、障害のある子どもの権利保障の取り組みが多面的に進んだのが20世紀の最後の四半世紀でした。

■当面の研究課題

私の研究課題は、こうした取り組みの到達点を確かめ、日本国憲法や子どもの権利条約などの指し示す「子どもの権利」「教育を受ける権利」などを、障害のある場合にもひとしく保障していくための課題を総合的に明らかにすることです。そのために、一つにはとりわけ戦後期における教育権保障の取り組みの歴史を、その発展の契機も含めて検討すること、二つにはそうした取り組みによってもたらされた教育権保障の今日的到達点を、地域格差なども含んでリアルに把握すること、三つには「教育を受ける権利」の内実を形成する教育実践に視点をあてて、その基本的な特質と、それが成り立つための諸条件を明らかにすることなどに、学生・院生のみならずとともに取り組んでいます。

3K・4K がまんして 動物の追跡

自然環境教育センター・准教授

鳥居 春己



ツキノワグマに発信器装着中
(写真提供：五條市／岸本氏)

私は「野生動物との共生」を目指して各種の調査を実施しています。最近では共生と言う言葉が頻繁に使われますが、非常に複雑な内容を含む、動物と人間生活の調整だと思っています。

■厳しい世界

現在は、奈良公園のシカを中心に調査を進めています。公園の周囲で首輪をしたシカを見つけたら、それは行動圏調査用の発信器を付けたシカなので、そつとしておいてください。ところで、野生動物の調査というと、

格好良く聞こえますが、実際は大変な作業なのです。それは、生きた動物はもちろん、死んだ動物も対象となるからです。行動圏は生きた個体に発信器を着け、後を追跡して確認します。奈良公園ではシカの脇に立つて、何をどれだけ食べているかを直接観察もしています。また、彼らは夜も活動しますから、彼らの生活を理解するには夜も追跡しなければならず、大変きつい調査になります。

■死体は語る

一方、死体には死体からでないと思われる情報があります。今までに持ち込まれた死体はネズミからクマまで大きさも様々でした。

シカの歯を削ることで、そのシカの年齢がわかります。それがたくさん集まるとシカの平均寿命が明らかになってきます。そのためには頭部を集め、肉を剥ぎ、煮出して骨にするという作業が先行します。

何を食べているかという分析では胃の内容物を採取し、栄養状態の分析には腎臓や脂肪などを採取します。その他にも、肝臓など多くの器官から寄生虫も探します。時には糞も拾ってきます。そんな訳で、実験室はひどい臭いのです。

他にも、「汚い」「きびしい」などのKがつきまといえます。それでも、その先には新たな発見という大きな喜びが待っています。まずは臭さを経験し、ぜひ当実験室をお尋ねください。